

## 6. おわりに

本事業では北海道産カラマツ材を従来の産業用途から、より付加価値の高い建築用途へと転換させることを目的のところでは述べましたが、当初は材料としての扱いではなく、無垢の完成品として普及させたい一心で、事業取り組んだが、結果としては得られることも多かったが、今後の製品化に向けての難しさも痛感されることになった。

特に性能面は期待値に近い数値が得られたが、JAS区分による格付評価の問題やSPF材との価格差など、今後クリアしなければならない課題が多く残った。

しかしながら今回の事業を通して全国で同じ様な考えで事業に取り組んだ仲間との出会いがあり、これからの国産材普及については力強い一面も垣間見ることができたのは別な部分での成果であったと考えている。

最後になりますが、今回の事業で尽力をいただいた関係者の皆さまにこの場をおかりしてお礼申し上げます。